

## 令和元年5月14日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

はい、それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。

先ほどご案内しましたが、本日もライブ配信でございます。

本日の話題は、一件。それでは、市長、よろしくお願いいいたします。

### 【市長】

なんか不思議なもので、お久しぶりですって言いたくなるような感じですよ。

時代の変わり目になる今年のゴールデンウィーク10連休、皆さんいかがお過ごしだったでしょうか。

忙しかったでしょうか、それともリフレッシュできたでしょうか。

静岡市役所の方も4月に人事が新しくなって、ようやく令和の時代になって、連休が明けて本格的に始動をして、2週目というところであります。どうぞよろしくお願いをいたします。

もう平成の時代にプレスリリースをしていると思うんですが、最初に、私、もう一度、広報課が言う手前みそになってしまうので、私が褒めつつPRをしたいと思うんですけどね、「情報発信力の強化」というのが市長の指示、その中で、よし、静岡市の紹介ガイドも受け身、受動態から能動態の、そういうガイドに切り替えていこうという発想を、まず“パッシブ”ではなくて“アクティブ”に、つまり攻めていこうということで切り替えをしたのがお手元に配付をした「ALL in One!! Shizuoka “静岡市”ってこんなところ！」という冊子でありますけど、新しい記者の方々のご存じないかもしれないけど、これが古いやつなんですよ。

いずれの冊子もね、官民連携で民間の力、民間のセンスを活かして編集していこうと、静岡市が作る官製のね、観光ガイドって、紹介ガイドって、やっぱりどうしてもお固くなってしまうじゃないですか。そうじゃなくて民間の発想、おしゃれな発想、斬新な発想を活かしていこうということで、前回は“るるぶ”、JTBですね、JTBの“るるぶ”っていうのが、とっても一つのイメージを確立しているので、そのノウハウを活かしてもらって、「あ、るるぶだ、無料だ。じゃあ、取ってみよう」という格好の仕立てにJTBさんの協力でやったわけですね。

ただし、これは静岡に来てくれた人に対して、静岡市の観光ガイドですよと、来てくれた人に私たち、これをお渡していたわけですね。それから今回のやつは切り替えまして、私たちから首都圏に攻めていこうと、つまり、静岡に来てよ、静岡に暮らしてよというようなメッセージを込めて、静岡市ってこんないいところだということで、富士山をドーンとダブル表紙で見せて、そして、「来てよし、住んでよしの静岡だよ」っていうことをよくわかってもらえるような内容にしました。

今度は“すろーかる”というね、フリーペーパーで定評がある会社をお願いをして、“すろーかる”のセンスっていうかな、タッチでね、これを編集をしてもらったんですけども、有楽町の移住センターで、たいへん好評であります。やっぱり移住を考えているという方々にこそね、渡して、そして、いろんな魅力的な全国の移住先、地域がある中で静岡市を、首都圏からも近いし良さそうだなというふうを選んでもらえるような、そんな中身になっております。ぜひ皆さま方からも、PRをしていただきたい

なと思います。

ちなみに先日のホビーショーで、「このぐらい用意すれば大丈夫だろう」と、500部用意したら、あっという間になくなっちゃったそうでもあります。そういう意味では来てくれた人に渡すのももちろんいいし、また、こちらから攻めてって静岡ってこんないいところだということを理解をもらうためにも使える冊子に仕上がりましたので、ぜひ、これは広報課よく頑張りましたということを申し上げたいなというふうに思います。これも情報発信力、攻める情報発信でよく作ってくださったというふうに思っています。

ということを露払いとして申し上げて、今日の話、いつまでも社会で輝き続けるあなたをサポート「NEXTワークしずおか」がいよいよオープンをするという項目に移りたいと思います。で、これも政令指定都市初めてです。取り組みとしては非常に意欲的な取り組みだというふうに思っていますし、鳴り物入りでオープンをしていきます。

新聞にもよく見出しで踊っている、人生100年時代になって、よし、これからも前向きに生きていこうという方々に対する受け皿として、静岡市は「NEXTワークしずおか」をオープンすることにいたしました。いったん現役を終えても、まだ社会に貢献をする意欲がある、自分のスキルを活かしたいと、そう思っているシニアの皆さんにそれまでの経験を活かした活躍の場所を提供をするというような仕組みであります。で、今までシルバー人材センターとかね、あるいはハローワークとか、様々な窓口はありましたけれども、それを総合化して、『庭いじり程度の仕事でいいよ』という人のニーズから、『いや自分はICT使えるし、かなり専門職としてやってきたと、そういう自分のスキルを活かすような企業を紹介してほしい』という、多様なね、シニア世代のニーズにワンストップで対応しようという窓口にしていきたいというふうに思っています。少し原稿を読ませていただきます。

これまでの就職支援施設や雇用促進施設などの既存の仕組みは、多様な就労ニーズに十分に対応することができず、シニアの就業がうまく進んできませんでした。こうした現状を踏まえ、平成29年度の行財政改革推進審議会で、この問題をテーマに取り上げていただき、諮問をしたわけですけどね、私から。諮問をして、高齢者ニーズに適った行政のあり方を議論してほしいという諮問に対して行革審の委員の皆さんが、様々な角度から審議を重ねてきました。取材をしてくださっている方十分承知だと思います。静岡ガスの特別顧問の岩崎清悟前会長が行革審の会長で、リーダーシップを発揮していただいて、そして、行政を中心に商工会議所をはじめとする経済界や福祉団体なども巻き込んで、どうすればシニアの就労が進むのか。また、一人ひとりのニーズに満足度の高いね、活躍の場所を提供できるのかということと一緒に考えてきました。

そして、これまでにない既存の仕組みを超えたシニアの就労サポート窓口を官民連携で設置しようとしたのが、この「NEXTワークしずおか」という名称に決まった窓口で、いよいよ来月の18日に、これも交通アクセスの良いこの静岡庁舎の2階にオープンをいたします。

窓口の名前が今日、初めてのお披露目になります。新しい窓口の名前は「NEXTワークしずおか」。この名称には、未来志向で次の人生のステージを、希望を持って活躍をしていきたいという方々のニーズに応えたいという我々の想いを体現をした名称であります。

この窓口には、大きく2つの特徴があります。

1つ目は、先ほどの説明からお分かりのとおり、ワンストップで、ここへ行けば多様なニーズ、様々な情報を得ることができる点であります。これまでシルバー人材センターやハローワークなど、いろいろな機関を訪ね回っていかねば得られなかった情報が、この窓口に来るだけで得ることができる。つまり、シルバー人材にはシルバー人材の、なんていうかカテゴリーの職種しか集まらなかったわけですね。で、ハローワークはハローワークという、ちょっとかなり限定的な職種しかなかった中で、ここはかなり包括的にいろいろな情報が得られるということでもあります。

さらに、週に2、3日程度働きたい方、あるいは毎日バリバリフルタイムで働きたい方、あるいは再就職のためのトレーニング訓練をもう一度、リカレント教育の一環で受けたいといった様々なニーズに対応できるよう、既存の就職支援や雇用促進施設や民間企業などのあらゆる静岡市の仕事の情報を提供できます。

例えば、農業でも、農業分野でも、栽培や出荷の現場で本格的に働きたいという方から、短期間でも収穫作業を手伝ってみようという方々まで、シニアのあらゆる就労ニーズに応えていきたいと思っています。これが1つ目の特徴であります。

2つ目はふらっと気軽に立ち寄れることができる空間作りであります。これまで『どうもハローワークという面接をさせられる』とか、『いろいろちょっと敷居が高い』と、『上から目線でこういろいろ指導される』とか、ちょっとそんなイメージが付きまっていたわけですがけれども、そうではなくて行政的な窓口ではなくて、カウンターをなくして明るいオープンスペースでサロンのような、ゆったりと相談できる、そんな工夫をすることで、ここを目的とする人々はもちろん、市役所で他の用事で来た方さえ、ちょっと寄ってみようかな、そんなふうに思える窓口にしていきたいというふうに考えています。このような窓口が計画、今回オープンできたのも官民連携と保健福祉長寿局を中心とした経済局や様々な局間連携の賜物だというふうに、ここはPRをしておきたいと思っております。静岡市行政が中心となって多くの関係機関と連携をし、また、市行政の中でも、これ重複になってしまいますね、保健福祉長寿局と経済局とが連携して取り組むことによって、いろんなニーズに対応できる窓口を実現することができたと自負をしております、ということです。

つまり、コンセプトはここで確立しましたので、これを現実化してほしいし、また、さらにそれを、芽を伸ばしてほしいという流れの中では、もうスタンバイをしてくださっておりますけれども、人が大事であります。スタッフが大事であります。そして、いろんな方々に推薦をしてもらったこの窓口で働く第一期のスタッフの方々に今日はお越しをいただいておりますので、さっそく紹介をしたいと思えます。ずいぶんここまで前置きが長くなってしまいましたけど、マネージャーを務めていただける一ノ宮由美さんであります。総務局長ありがとう。マイクをお渡しいたしますので、ご紹介かたがた一言お願いいたします。

#### 【一ノ宮さん】

「NEXTワークしずおか」の一ノ宮でございます。よろしく願いいたします。私の隣におりますのがスタッフ、高齢者の方が実際に窓口に来られた時に相談員として勤めさせていただきます、寺田と田中でございます。よろしく願いいたします。

今は一月後のオープンに向けて、準備に勤しんでいるところでございます。今いる高齢者の方々がいきいきと生活をする姿を見ることによって、今もいる私たち、もっと若い世代の人たちが静岡市で生きることへの希望が持てるような、そんな窓口になりたいと思っておりますので、まず市民の方々に、この窓口を知っていただくには、マスコミの皆様の方が力が必要です。どうぞこれからも「NEXTワークしずおか」をよろしく願いいたします。

【市長】

せっかくだから、寺田さん、田中さん一言ずつ言ってもらおう？

【寺田さん】

5年ほど高齢者雇用の仕事をさせていただきました。その経験を活かせればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【田中さん】

私は民間におりまして、逆にシルバー人材センターのほうにお世話になった者でございまして、その経験を活かして高齢者の方に寄り添えるように努めてまいりたいと、かように考えております。よろしく願いいたします。

【市長】

同じ目線で相談をしてくださる二人のスタッフでね、寺田さんはヤナセで、そして田中さんはペンタックスで35年以上サラリーマン経験をして、そして静岡に戻ってきて、今、ご活躍をさせていただいているというような経験の持ち主で、寺田さんにつきましては、れっきとした日本人でありまして、私の高校の先輩でもございます。

ぜひ、また取材をさせていただいて、ちょっとスポットライトを向けていただければ、ありがたいなというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。どうもありがとうございました。

ということで、これからこのスタッフの下、我々、下支えをして人生100年時代ももっともっと輝きたいんだ、前向きに生きていきたいんだという都市環境を、静岡市、創ってまいりたいなというふうに思っております。政令市初の取り組みでありますので、ぜひ今後とも見守っていただければ嬉しいなというふうに思いますし、この取り組みを通じて多くのシニアの方々が地域社会で生き生きと働き、生涯現役で活躍することによって、いわゆる働き方改革にも貢献できるように、また、静岡市の五大構想の一つの健康長寿のまちづくりにも役に立つような、そんな窓口になっていければいいなというふうに願っております。今日の話は以上です。

【司会】

それでは、ただいまの発表項目について、ご質問があればお願いしたいと思います。ぜひよろしく願います。いかがでしょうか。

【市長】

いかがでしょうか。

個別にチーム一ノ宮の皆さんの取材をしていただければ、うれしいなというふうに思います。よろしくお願いをいたします。

【司会】

はい。では、また個別の取材のほう、ぜひ、よろしくお願いをいたします。

【市長】

これオープン記念イベントも配付をしてありますので、こちらのほうも、ぜひ、取材をよろしくお願いをいたします。

「生島流 人生の生き抜き方」ということで、オープン記念イベントとして5月31日の金曜日、ユーフォニアで開催をしますので、一人でも多くの方々に、この「NEXTワークしずおか」の存在を知っていただきたいというふうに意図しています。はい、ありがとう、以上です。

【司会】

記者の皆さまよろしくお願いをいたします。

それでは幹事社質問に移りますので、幹事社さんよろしくお願いをいたします。

【産経新聞】

幹事社から2点質問させていただきます。

まず1点目。今回の定例会見がですね、元号が令和に変わって初めての会見ということになりますので、ペーパーでもコメントをいただいたところでもありますけれども、令和の時代、日本全体が人口減少ピークなどの影響で自治体を巡る環境というのも大きく変化していくと思います。

政令市の市長として静岡市をどのように導こうと考えているのか、新時代への期待とともに意気込みを改めて聞かせていただければなと思います。よろしくお願いをいたします。

【市長】

はい、不思議なもんですよね。ゆく年くる年よりも、もっと大きな時代の節目、ゆく時代くる時代ということで、本当に人心っていうものは一新できるんですよね。そういう中での質問だというふうに思っています。

この時代の新しくなるということを追い風にして、特に令和という元号ですので、これはコメントもしましたけど「和をもって尊しと為す」、これは選挙戦を通じて、私は静岡市は一つなんだと、大同団結してこれから世界に打って出るんだという訴えをさせていただきましたけれども、日本を代表する都市の一つである政令指定都市として、大胆にいろいろな

連携をする中で、第3次総合計画、あるいは五大構想を着実に進めていきたいというふうに思っています。以上です。

#### 【産経新聞】

続いては、縣市連携に関してでございます。

先月7日に、三選を果たした後、県知事を直接訪問するなど縣市連携の重要性というのはこれまで再三強調しておられました。

ところが、先日の定例会見では、知事から提案された知事特命のカウンターパートを新たに設置しない方針を明言されました。さらには、その理由として副市長と副知事間で実質連携が取れているというような趣旨の発言もありました。連携強化を目指すというこれまでの発言とはちょっと矛盾しているようにも取れました。

現場レベルでは、縣市で連携が取れているがトップレベルの連携ができていない、あるいはそもそも縣市連携が取れていなかったというのは認識違いだったなど、現在の縣市連携の現状認識をお話しいただいた上で、今後の縣市連携のあり方方針についてお聞かせください。よろしくお願いします。

#### 【市長】

おっしゃるとおりですよ、私は県知事と連携したいという気持ちで当選の翌日にノーサイドにしようということをお願いに行きました。結果はご承知のとおりだと思いますけども、今でもその気持ちは変わっておりません。

この秋にはワールドカップラグビーが静岡県でも開かれるわけですし、静岡市と静岡県と連携をして、そして多くの外国のお客様を受け入れていかななくてはならない。ラグビーの試合も試合が終わったらノーサイドで、敵も味方も肩をたたきあうわけだから、そんなふうにもう選挙は終わったので、とにかくノーサイドだという気持ちで県知事さんとも連携をしていきたいと、以前のことは水に流したいというようなことを伝えました。その気持ちは今でも変わっておりません。

縣市連携というものはいろいろなレベルであろうと思います。例えば、清水港の港湾整備については県営港でありますのでハード整備を中心に県の皆さんが一所懸命に頑張ってくれていますし、また政令市として我々はウォーターフロント開発として、これから責任も果たしていかなければいけない。そんなことで海洋文化都市推進本部というものを設置して県のカウンターパートナーとして非常にうまくいっていますし、その協議体でランドデザインも連携して作らせてもらって職員レベルでも非常に連携してやっています。

夢テラス、日本平のね、あれも80万以上の入場者があったということでもありますけれども、静岡市の都市局と県の交通基盤部の職員の連携の賜物だなというふうに思っております。

で、ご指摘の美濃部副市長と難波副知事をそれぞれトップとする連携会議というものも開かれているし、それが報告だけで終わっているといったら、それをもっと実質化していけば

いい、工夫の余地はあると思いますけども、それも既存のものとしてあるわけですし、先週は小長谷副市長と吉林副知事も胸襟を開いてコミュニケーションを交わしているという報告がありましたし、そんな意味で連携はできているというふうに思っております。ですから市長と県知事も連携をしていきたいということは、私は冒頭申し上げたとおり、いつも願っているところであります。

**【司会】**

よろしいですか、はい、ありがとうございました。

それでは各社さんのほうから、質問を受けたいと思いますので、よろしくお願ひします。

どうでしょうか、よろしいですか。はい、ありがとうございます。

また本日の案件、話題等のご質問ありましたら、また改めての取材をお願いしたいと思ひます。

それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は今年 28 日、火曜日の午前 11 時からとなります。よろしくお願ひいたします。